

KSKR

No. 191

2014
Jun

6

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料 1部 100円

会員は会費に含まれています。

今年のNHK ハート フォーラム

2014年6月15日滋賀県近江八幡市のG-NET しがで自閉症スペクトラムの人の地域生活を考えるをテーマに講演とシンポジウムが満席の中でおこなわれました。なかでも本田秀夫教授(信州大学医学部付属病院子どものこころ診療部診療教授)の「特徴から理解する自閉スペクトラム」※はとてもわかりやすく、興味深く、しかも内容がとても濃くて感動しました。さわりを紹介すると、今回、日本精神神経学会のガイドラインで自閉スペクトラム症となるようであるが、本田先生は「自閉スペクトラム」がいいのではという話から始まり、発達障害とは 発達の異常によって社会の適応に問題がある状態をいうのであること。子ども時期に何らかの問題が発覚し、親たちはこの問題がいつまで続くのかを心配するが 大人になってもこの社会の適

応の問題が持続したときに発達障害というのである。ここでいう、発達の異常というときの「異常」の意味は正常(ノーマル)の反対の異常ではなく、通常(ユージュアル)の反対の異常のことである。正しいとか間違っているの意味でなく少数派という意味である。たとえば左利きの人は人口の10パーセントぐらいいるが、左利きの人は病気障害ですかといえば 昔は強制的に直させることもあったが、今はむしろサウス

をやらない異常。2は他の人がやらないことをやる異常、3は目に見えない異常がある。3には内面で考えている、関心がないやりたくないのに何とかやっている。表面上はわからないが内面でこまっている状態であり、精神科医が気になるのは3である。以上の冒頭の話を始め、認知が発達するとこだわりも発達する「こだわり保存の法則」やスペクトラムとは連続性よりもむしろ「多様性」を想定した概念、自律スキルとソーシャルスキルの両立の鍵は「合意」「構造化」「インクルージョン」の理念と教育などについて、熱い2時間の講義はあつという間でした。 ※レジメには症がついています。

河村



ポーとして野球などでは有利なこととして重宝がられるのであり、多数派、少数派の問題で考えた方がいい。この異常=少数派には大きく3つあり、1つは他の人と違い、何か



**あなたも 特定非営利活動法人
奈良県自閉症協会に入ませんか。**

障害者権利条約第7回締約国会議 我が国発言骨子

（2014年6月10日）

（冒頭）

障害者権利条約締約国会議において、初めて締約国として発言することを光栄に思う。

今次会議には、2名の日本の市民社会からの代表が政府代表団に加わり、本日この場に出席している。お一人は、13の日本の障害者団体から構成される日本障害フォーラムの藤井克徳氏。もう一人は、我が国の障害者基本計画の政策や実施状況について政府に提言する障害者政策委員会の前委員長である石川准氏。

1月20日に批准書を寄託したことは喜びであり、これにより日本はこ

の条約を締結した。本日、締約国として初めてのステートメントにおいて、私は三つの点を発信したい。市民社会の役割、国際協力の重要性、障害と災害である。

（市民社会の役割）

障害者権利条約が国連加盟国のみならず市民社会の参加も得て作られたこと、条約の実施が市民社会と共に進められていることを思い起こしたい。日本の市民社会も、国連の交渉に参加し、また国内の条約の実施にも取り組んでいる。

この条約を締結し、最大限実施するために、我が国は関連国内法を改正し、国・地方公共団体・民間事業者、障害に基づく差別に対する具体的な行動をとることを法的に要求する新たな法律を策定した。

我が国は、教育や雇用等の特定の政策分野において、条約実施のための意見交換を市民社会と共に引き続き行っていく。多様な障害をもつ人々が一緒に議論する必要がある、それがインクルーシブな社会を促進する。本日、我が国が、日本障害フォーラムやポーランドと共に開催したサイドイベントでも、多様な障害をもつ人々が特定の分野について議論するという点が主要な論点であった。

（国際協力の重要性）

2点目は、国際協力の重要性である。世界の人口のおよそ15%、およそ10億人が障害者であり、その80%が途上国で暮らしている。日本はこれらの途上国に対する国際協力において、人材育成、技能訓練、意識啓発など、地域に根ざしたりハビリテーションという広い分野に重点的に取り組んできた。

1つの例として、タイのバンコクに設立された「アジア太平洋障害者センター」を挙げたい。2002年に我が国が同センターへの支援を開始して以来、アジア太平洋地域の30か国以上の国から1600名以上（その半数以上が障害者）が研修を受け、研修後、彼らの多くは自身のイニシアティブを展開した。

例えば、知的障害者自身が知的障害者の問題やその解決策を議論するワークショップを開催し、このような活動により、後にタイの知的障害者による初めての知的障害本人のグループが立ち上がった。その後、同グループの活動はミャンマーやカンボジアに広まった。

（障害と災害）

3点目は、障害と防災である。災害における障害者のニーズに応えるこ

とは重要である。特に、障害者は災害に対して脆弱である。自然災害による障害者の死亡率は、被災地全体の死亡率に比してはるかに高いことが知られている。これは、2011年3月の東日本大震災にも当てはまる。

我が国は、東日本大震災後、災害対策基本法を改正した。その中では、障害者を含め避難に支援を要する人々の名簿を作成することを義務づけている。

明日、国連経済社会局（DESA）と我が国や市民社会は、障害の視点から防災を考えるイベント・DESAフォーラムを共催するので、お越しいただきたい。

（最後に）

我が国は、この締約国会議を重視しており、他の国連加盟国及び市民社会と協力していくことを誓う。我が

国は、国際協力、また障害者権利委員会に将来参加することを通じて、積極的にこの条約に貢献していく考えである。

締約国会議関連 URL

吉川大使のステートメントも HP 掲載されています。

http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/yoshikawa061014_JP.html

HP 日本語：<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/index.html>

HP 英語：<http://www.un.emb-japan.go.jp/statements/index.html>

FB：<https://www.facebook.com/JapanMissionUN>

自閉症と遺伝子

在日フランス大使館と日仏会館フランス事務所の主催、一般社団法人日本自閉症協会の後援により、「自閉症と遺伝」をテーマとする講演・討論会が5月30日に開催されました。

講演会は、フランス国立科学研究所センターの名誉研究部長であるベルトラン・ジョルダン博士の近著「自閉症遺伝子～見つからない遺伝子をめぐって」の日本での翻訳出版、及び、その来日に際して開催されました。

発症率の高い深刻な疾患である自閉症と遺伝子の関わりについて、フランスではさまざまな議論があります。自閉症とひとくちに言ってもその状態像は様々で、フランスでも日本でも、症状が軽い人まで含めると100人に1人いると言われています。

このテーマへの関心の高さは、発症の頻度からも説明がつかます。

日仏会館には150名近くが集い、パネリストと聴衆の双方から興味深く活発な議論が行われ、催しは成功裏に終了しました。ジャーナリスト、研究者、医療従事者、協会主催者、自閉症の当事者や関係者など、さまざまな立場の聴衆が発表に耳を傾け、各々が関心を抱くテーマについて意見を交わしました。

ジョルダン博士はまず、自閉症を理解するための異なった取り組みを紹介し、自閉症の遺伝的要因の同定に関する最新研究状況を取り上げました。さらに、自閉症の遺伝子検査の正当性について、多くの遺伝子が複雑に関わっているため、現段階では正確に特定する診断は下せないという疑問を呈しました。ジョルダン博士は、科学的な研究は、遺伝、神経生理学、環境など、自閉症に潜在的

に関わっているとされる原因の全体にもっと目を向けるべきで、この疾患の状態像をさらによく理解し、当事者の状況を改善するためにこそ行われるべきだと意見を述べました。講演に引き続き、一般社団法人日本自閉症協会会長で児童精神科医の山崎晃資博士、厚生労働省 障害児・発達支援室の日詰正文専門官、ジョルダン博士の三名でパネルディスカッションが行われました。聴衆から各々の専門家へ投げかけられた質疑の内容は、このテーマが持つ様々な側面へ広がりました。科学的側面のみならず、倫理的側面、文化的特質、あるいは、フランスと日本の法制度にも話が及び、聴衆からの感動的なエピソードやコメントなどもはさんだ意見交換となりました。（在日フランス大使館 web より）

第66回精神保健シンポジウム 発達障害者が地域で 働くために 一教育と就労支援一

開催要項

1. 目的または趣旨

発達障害者の地域での生活支援を推進するにあたって、障害に対する理解の深化と、望ましい教育と就労支援の啓発を目的とする。

2. 主催

公益財団法人 日本精神衛生会
奈良県立医科大学精神医学講座

3. 開催日時

2014年9月13日（土）

14：00～17：00

4. 開催場所

東大寺総合文化センター
「金鐘ホール」

〒630-8208

奈良県奈良市水門町100番地

5. 参加対象者

一般市民および教育関係者、医療関係者、専門職等

定員 320名

6. 参加費の有無

無

7. プログラム

①基調講演（14：00～15：00）

『思春期から成人期の発達障害の理解』

飯田順三（奈良県立医科大学看護学科人間発達学教授）

②シンポジウム（15：00～17：00）

『学校生活から就労までの支援』

根来秀樹（奈良教育大学障害児医学分野教授）

山本敏久（奈良県教育委員会）

中村匡志（奈良県発達障害支援センターでいあ～）

新谷正樹（奈良障害者職業センター）

8. 内容に関する問い合わせ先

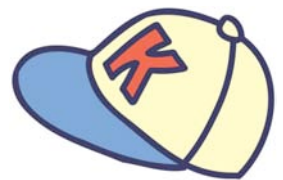
奈良県立医科大学精神医学講座 担

当：上田昇太郎

〒634-8522

奈良県橿原市四条町840番地

TEL：0744-22-3051（内線3461） FAX：0744-22-3854



支援者対象 平成26年度奈良県発達障害支援センターでいあー主催研修



トレーニングセミナーatでいあー

＜トレーニングセミナーとは？＞TEACCH（ティーチ）プログラムをベースとした少人数制の現任者研修です。セミナーでは、6名のグループにトレーナーがつきます。受講生は2日間のセミナーの中で、講義（自閉症の方の課題作成や評価の仕方・コミュニケーション支援など）や演習（実際に自閉症の方にご協力頂き、課題評価や作成、構造化など）を受講します。



日 時	平成26年7月19日（土）9：00～17：00 20日（日）9：00～17：00 の 2日間
会 場	奈良仔鹿園（奈良市古市町1-2）
統括・講師	中山 清司 氏（自閉症eサービス代表）／譲田 和芳 氏（bon ワークス西宮） ほか
定 員	12名（学齢期グループ6名・成人期グループ6名）申込み多数の場合は書類選考により決定します。
対象者	自閉症および発達障害児・者支援に携わっている方
参加費	2万円（当日、受付でお支払いください）
申込み方法	申込み用紙に必要事項を記入し、郵送にてお申込みください。
申し込み先	〒630-8424 奈良市古市町1-2 奈良仔鹿園内 奈良県発達障害支援センターでいあー ※封筒の表に、「トレーニングセミナー受講希望」と記載してください。
締切日	平成26年6月30日（月）必着
参加可否	締め切り後、数日でお申込み頂いた方全員に通知します（多数の場合は書類選考にて決定します）。 7月9日（水）までに通知がない場合は、でいあーまでご連絡ください。
主 催	奈良県発達障害支援センターでいあー
協 力	自閉症eサービス
【お問い合わせ先】奈良県発達障害支援センターでいあー大西・中村 TEL：0742-62-7746 / メール：deardeer@hozanji-wel.org	

タイムスケジュール（予定）

1日目（9：00～17：00）		2日目（9：00～17：00）	
9：00	受講生集合・オリエンテーション	9：00	受講生集合・オリエンテーション
9：10	講義「評価と自立課題の作成・実施」	9：10	講義「コミュニケーションツールの取り方」
10：20	演習「モデルセッションと観察のまとめ」	10：00	演習「再構造化した課題の実施」
11：00	演習「評価セッションの実施」	10：20	演習「コミュニケーションツール」
11：30	グループミーティング「評価課題のまとめ」	11：00	グループミーティング「コミュニケーションツールのまとめ」
12：00	昼食・昼休み	12：00	昼食・昼休み
13：00	演習「自立課題の作成」	13：00	演習「コミュニケーションツールの準備」
13：45	演習「自立課題の実施、再構造化」	13：15	演習「コミュニケーションツールの実施、再構造化」
14：45	親への報告／明日の準備／休憩	14：15	演習「言語理解のセッション」
15：00	グループミーティング「今日のまとめ」	14：30	演習「家事または余暇活動の見学」
15：50	講義「コミュニケーションツールの開発」	14：45	親への報告／プレゼンテーションの準備
16：40	モデルセッションの見学	15：00	グループミーティング「2日間のまとめ」
17：00	終了 ※教材撮影	15：30	全体ミーティング
		16：00	講義「行動マネジメント」
		16：30	修了式（～17：00終了）

<トレーニングセミナーat であー申込書（平成26年度）>

ふりがな		性別	男 / 女
お名前		年齢	才
ご所属		職種	経験年数（ ）年
参加通知・連絡先	〒 ー 住所： （ 自宅 / 職場 ） TEL： FAX：		
当日の連絡先 （緊急連絡先）	TEL：		

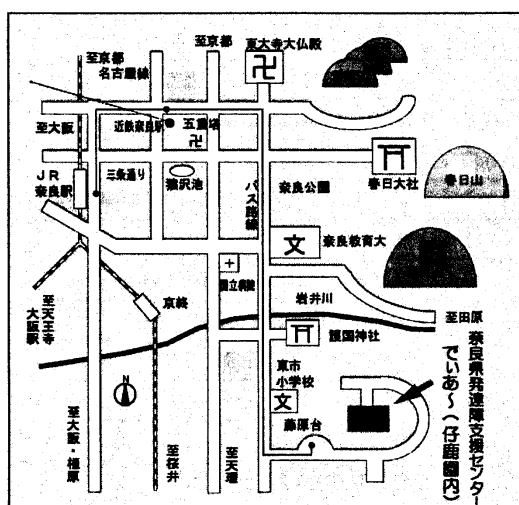
※複数名で申し込まれる方は、お手数ですがコピーしてお使いください。

○参加希望の動機や研修会に求めること（現在の支援の状況や取り組んでいる支援の内容等でも可能）

○これまで受講してきた自閉症関係の研修（読んだことのある書籍でも可）

○「平成26年度発達障害基礎講座／トレーニングセミナーat であー2014 基礎講座（5月31日）」について。
受講した / 受講していない ←該当する方に○をつけてください

○会場案内図



〒630-8424

奈良市古市町 1-2 奈良仔鹿園内

※駐車場あり

【主催】

奈良県発達障害支援センターであー

【協力】

自閉症eサービス



奈良県高機能自閉症児・者の会アスカ設立 10 周年記念講演会

発達障害キャリアオーバーへの支援における

医療と教育・福祉のコラボレーション

～発達障害を発達凸凹として、輝く個性として受け入れられるには～

日時 2014 年 11 月 16 日 (日) 13:00～15:10

※アスカ正会員対象の座談会 15:30～16:30

講師 杉山 登志郎 先生

(浜松医科大学児童青年期精神医学講座 特任教授)

※コーディネーター: 櫻井秀雄先生 (関西福祉科学大学大学院教授)

場所

関西福祉科学大学 4 号館 大講義室

(大阪府柏原市旭ヶ丘 3-11-1)

・近鉄河内大阪線「河内国分」から徒歩 15 分位

・「大阪教育大前」から徒歩 15 分位 ・JR 関西本線「高井田」から徒歩 25 分位

申し込み方法

必要事項を記載し、メールにてお申し込みください。

asukakouen@yahoo.co.jp (講演会申込担当者) まで

メールの件名は「アスカ講演会申込み」。

お名前・住所(市町村)・連絡先・会員区分(会員/会員外)・

所属先(教員・支援者の方のみ)・駐車場の要/不要

参加費

一般 1,000 円 / アスカ正会員(正会員・家族会員・成人部会員・おやつ会員・賛助会員) 無料

主催

奈良県高機能自閉症児・者の会アスカ

後援

奈良県 / 奈良県教育委員会(申請中)

奈良県発達障害支援センターでいあー

〇問い合わせ先

アスカ事務局 spectrum_asuka2004@yahoo.co.jp / アスカ HP http://www.geocities.jp/spectrum_asuka/

平成 16 年に設立いたしました当会も本年で設立 10 周年を迎えます。これもひとえに関連機関の皆様によるひとかたならぬご支援のたまものと、会員一同、感謝申し上げますと同時に、当会も次の 10 年を見据え、何を振り返り、今何をすべきか！考え直す時期に來たと言えます。そこで、浜松医科大学児童青年期精神医学講座特任教授 杉山登志郎先生をお招きし、標題の通り「奈良県高機能自閉症児者の会アスカ設立 10 周年記念講演会」を開催する運びとなりました。

(第一部)では講演テーマを「発達障害キャリアオーバーへの支援における医療と教育・福祉のコラボレーション～発達障害を発達凸凹として、輝く個性として受け入れられるには」として、①幼児期～児童期～思春期・青年期～成人期と言った各ステージをキャリアオーバーする際、医療がどのような形で教育や福祉とコラボレーション(薬物療法や入院治療のタイミングなど)されているのかと言った最新の知見と先生のご実践、②各ステージ間のキャリアオーバーがうまく支えられてアイデンティティ形成がなされると考えられるのですが、発達障害を発達凸凹として、個性として受け入れられるには、何が各ステージにおける医療・教育・福祉に求められるのかと言った課題を、DSM-V の出版に次ぎ ICD-11 と診断基準の変遷がその支援に与える影響に触れつつ御教示賜ります。

続いて、(第二部)に「アスカの会正会員とのクロージング座談会」を企画し、奈良県内の発達障害児者支援の現状と課題を話し合うことで奈良県における発達障害児者支援体制拡充の一助となることを信じてやみません。

アスカの会スーパーバイザー(関西福祉科学大学)

櫻井秀雄

自閉症理解と支援の為の

**5回連続
基礎講座**

勉強会

奈良自閉症協会は、自閉症や発達障害の人たちが豊かに暮らせる奈良を目指し活動を行っています。

保護者の方、幼児期からの支援者である保育士さん、幼稚園の先生から就学時の支援を担って下さる先生方、更には成人になってからの支援関係者の方々のご参加をお待ち致します。



第1回

「自閉症の人の未来のために！ 自閉症の特性と支援の原則」

日 時 平成26年 9月14日(日) 13:40~15:50
場 所 奈良県文化会館 小ホール
奈良市登大路町6-2 *近鉄奈良駅1番出口より東へ徒歩5分
参加費 500円 (資料代)
定 員 300名 (要申し込み)



講 師 中山 清司氏
(自閉症eサービス代表)

順次開講

第2回 10月 5日(日)

「評価と個別プログラム」
(山根和史氏 萩の杜)
奈良商工会議所地下AB会議室

第4回 12月14日(日)

「コミュニケーション」
(岩井栄一郎氏 自閉症eサービス@京都)
奈良商工会議所地下AB会議室

第3回 11月29日(土)

「構造化」
(松尾浩久 特定非営利活動法人
HEROUS理事長)
奈良商工会議所地下AB会議室

第5回 1月10日(土)

「自立した生活」
(讓田和芳氏 bonワークス西宮
管理者/サービス管理責任者)
やまと郡山城ホール・レセプションホール

**ペアレントクラス&
スタッフクラスも計画中**
少人数性のワークショップ

実践してみたい方へ…
トレーニングセミナー、
作ってみよう! やってみよう!
参加対象者:
基礎連続講座参加者より募集します

追っ
て案内
します!!

申し込み・問い合わせ先

asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

(可能な限りメール
でお願いします)



0744-33-4755

(問い合わせの場合はメール又は留守電にメッセージを)

*講師や会場の都合により、場合によっては時間・場所等を変更することがあります
*参加費(資料代)1回につき500円です。当日会場にてお支払い下さい。

平成26年度 社会福祉法人 社会福祉事業研究開発基金助成 「発達障害児子育て支援スキルアップ事業」

主催 特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会 後援 奈良県・奈良県教育委員会・奈良県発達障害支援センターでいあ〜(予定)
自閉症eサービス

申し込みFAX または メール先

FAX:0744-33-4755**asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp**

メールでのお申し込みには件名「自閉症理解講座」とし下記の内容をお書き下さい。

携帯からもOKです。（QRコード対応機種であれば、右のQRコードからアドレスが読み取れます）

ふりがな		保護者 ・ 支援者
名 前		支援者の方は 所属先
連絡先	アドレス	TEL
第1回	第4回 コミュニケーション	
第2回 評価	第5回 自立した生活	
第3回 構造化	参加希望日に○をつけて下さい	

申し込み者優先となりますが、お席は充分の数がありますので 申し込み無当日参加もOKです。

自閉症支援を生活のすみずみに **自閉症eサービス**

- ▽特定非営利活動法人自閉症eサービスは、大阪および阪神地区を中心に活動しています。
- ▽自閉症の人たちが参加するキャンプ事業等をおこなってきた特定非営利活動法人BONが2011年4月に名称変更し、自閉症支援に携わる支援者たちの横断的ネットワークである自閉症eサービス(旧自閉症eネット)の事業を統合し、現在に至っています。
- ▽2014年度、自閉症eサービスは、余暇支援、人材育成&コンサルテーションの2つの事業を展開し、調査研究室を通して将来の新規事業創出を追究していきます。


<http://www.jiheishou-e.jp/> e-mail: jiheishou.e@jiheishou-e.org

自閉症eサービス 谷町オフィス 〒542-0062大阪市中央区上本町西3-3-28 FAX:06-4305-3158

成人部 会員紹介

★就労からグループホーム★

成人部 石川 徹の父石川 巖で

す。息子徹の就労時点から現在と将来のことで話をします。

「実習はいつ終わるの？」4月も半ば、就労先に出掛ける前、カレンダーを見ながら徹が母親に聞いた。「どうして？」と言うと、「大学へいかなきゃ〜！」「どこの大学？」「天理大学！」・・・二階堂養護の実習から卒業後もそのまま就労についてプラスチック会社ですが、本人は実習が終われば大学進学と考えていたのです。家内がどう返事したかは語りませんが、「本当に辛かった。」と言っていました。それから10年真面目に（少し熱があるから休ませようとしても「行く！」と聞かないので、病院に診て貰った後会社へ送っ

ていったほど）働きました。昼休みなど、社員との会話に入れないので、持て余した時間は溝の掃除などしていたらしく、実家の仙台に帰って2～3日会社を休んだ後、出勤したら「徹君が居ないと会社が汚くなって困る。」と言われるほどでした。通勤の当初3年程は自転車でした。自宅が高台なので、汗だけで帰宅していました。祖母が入院し、時間の関係で車で送迎したら、余程楽だったとみえ、それからは車での送迎で、社員からは「重役出勤だな」と。ただ、プラスチックの粉塵を吸うためか、変な咳をするのが気になり、また親も60才に近づき「親亡き後」の事を考えるようになり、「このまま一生を終わらせるのは忍びない」家内と話し合いました。徹はコミュニケーションが取りにくい反面自分の身の回りは大体出来るので、大人数の「施設」では放っておかれる心

配があるので、少人数での生活をする「グループホーム」にしようと思し始めました。丁度、二階堂で同級だった人から「移転拡張し4月開園する『ちいろば園』が、グループホームもやる」との情報にけることにしました。幸い応募人数内で入園出来、徹は退社翌日から通園しました。ただ、グループホームはなかなか実現せず、他の園生の母親と自分たち独自でも作ろうと奔走したところ、4年目にやっとちいろば園での土地の確保などが出来たことで、園としてのグループホームに入ることが出来ました。当初は週2～3日の訓練から始まり、土日は家に帰るから、ようやく今年4月からは2週間連泊をするようになりました。「終の棲家」として、設立に頑張った家内ですが、乳癌で開所4年目に亡くなりました。

今年徹43歳。私72歳。5年前

再婚しました。小学校の同級会（新婚旅行で行った蔵王でやるとのこと、徹を連れて行った）で52年振りに再会、縁あって結婚しました。今、徹を良く理解してくれ、徹も懐いて手料理には鼻歌を歌いながら目を細めて食べています。

これからは、「健康第一」と、土曜の午後は大和高田のプールで水泳を習っています。

趣味には中学時代から行っている、田原本福祉センターでの図工教室に月1回。外出支援ヘルパーと電車に乗って出かけることを、休日に月2～3回。

それと、生活の基本の「挨拶（おはよう・ありがとう・さようならetc）がキチンと出来る事が大事」と、ちいろば園でプールで外出支援のヘルパーさんをお願いしています。

先日、グループホームで世話人より、「私が言う前に、徹君のほうから『さようなら』と初めて言ってくれました。すごく嬉しかったです！」と話がありました。回りの人に支えられ健康で少しでも多く楽しい人生を送れるよう願って止みません。

療育部企画 第1回
「先輩お母さんのお話を聞いてみませんか？」のお知らせ

—— 階堂養護学校高等部をご卒業後、丸商加工にて野菜の袋詰めなどのお仕事されているお子さんをお持ちのお母様と一緒に
お茶やお菓子をいただきながらの

「茶話会」に来てみませんか？子育てにおけるヒントやコツあるかもしれません。

協会会員、会員外とも無料です。たくさんのご参加お待ちしております。

日 時：平成26年7月10日（木）
10：00より
（受付開始は9：45より）

場 所：奈良県心身障害者福祉センター 2F 研修室（磯城郡田原本町）

参加費：無料

申し込み、お問い合わせは、篠原までお願いします。

携帯番号 09090901183

携帯アドレス

toshiko.s.3658@ezweb.ne.jp

飛行機で沖縄旅行！！

GWの5月3日から6日まで3泊4日で大淀養護学校小学部の5年生の男の子、K太を連れて沖縄に行ってきました。実は去年のGWにも2泊3日で沖縄に行ったのですが、まさかの低温で海や屋外のプールに入れないほど。せっかく沖縄まで行ったのに温水プールしか入れなくて…今年はそのリベンジ！です。

去年の沖縄行きで初めて飛行機に乗ったK太。乗り物に乗る事が大好きで、ジェットコースターや遊園地の乗り物も大好きです。音に関しての過敏さも無く、シートベルトも自分で進んでしますが、さて飛行機はどうでしょうか…？

GWの関西国際空港、混雑を心配しましたが国内線のほうは広さもある為か混雑さは感じません。スムーズに搭乗、座席に座りシートベルト

もOK。初めての飛行機で少し緊張するもワクワクして窓の外を見ています。が、離陸の為ジェットエンジンの音と振動がし始め動き出したとたん硬直！文字通り固まってしまいました。隣の私の手を握って離しません。その後安定飛行に入っても固まったままで機内サービスのジュースや大好きなミニカーを渡したりしながら、私の手を離すまでは約1時間位かかりました。やはり飛行機は他の乗り物とは違いますよね。でもその後はすっかり飛行機にも慣れ、帰りの便では私の手を握る事も無くご機嫌で過ごしていました。これが去年の初めての飛行機体験でした。

さあ今年はもう経験しているので大丈夫だろうと思っていましたが、往きの離陸時にはまたもや硬直！！

また約30分位は私の手を離しませんでした（笑）

ところで、沖縄旅行に行くにあたり大変参考になったのがネットの「ブログ」と「口コミ」です。沖縄はリピーターの方がとても多いので、「沖縄 おすすめ ホテル」や「沖縄 子連れ ブログ」で調べると、沢山ヒットします。ホテルを決めたり、準備品などとても参考になりました。ビーチではマリンシューズが必需品だとか、レンタカー情報などなど。また、「自閉症児 沖縄 旅行」や「自閉症児 飛行機 旅行」などでも自閉症児連れの旅行記が沢山出てきます。初めて飛行機に乗るにあたって準備した事など結構でてきます。驚いたのは、海外旅行に行っておられる方が結構おられて「いつか行けるかな？」と考えたりしました。

今回、沖縄旅行や飛行機での旅行を考えている方に少しでもご参考になればと思い、いくつか役立ちそうな事柄を挙げてみました。

★我が家はANAのホームページにて「旅作」というインターネットのパック旅行で行きました。「飛行機」+「ホテル」+「レンタカー」と自分で自由に組み立てられ、飛行機の間も選べます。また、出発の2カ月前前になると自分で「事前座席指定」もできます。旅行会社のパンフレットよりも少し安価なようです。

★飛行機に乗るにあたり、去年はANAにはK太については何も伝えていませんでしたが、帰りの便で興奮のあまり独り言が大きくなってしまいCAさんに「おやすみの方もいらっしゃいますので、静かにして下さいね」と言われてしまいました…。そこで今年は「ANAスカイアシスト」という「お手伝いが必要な方」用のコールセンターに事前電話をしました。「特に手伝いは必要ありませんが、知的障がいがありますので興奮すると大きな声を出すかもしれ

ません。」と伝えると、「何かこちらからお願い（注意）するときはご本人に直接お伝えして解りますか？」と聞かれました。「わからない場合もありますので、その時は私（母）に言って下さい」と伝えておきました。「優先搭乗はご希望ですか？」とも聞かれましたが、K太は待つ事は苦手では無いので「それは必要ありません」、といった感じのやりとりでした。現在航空券は「チケットレス」で預ける荷物が無い場合は直接「手荷物検査場」に行きますが、「スカイアシスト」に連絡している場合はチケットカウンターに行く事になります。そこでまた「何かお手伝いは必要ですか？」「優先搭乗希望されますか？」と聞かれました。

★飛行機に搭乗してから何かCAさんに聞かれたりするのかと思ったのですが、何も声掛けされる事はありませんでした。必要が無ければ声は

掛けてこれられないようですね。今年はK太も目立つような行動がありませんでしたので。（昨年より飛行機が小さく、ジェット音が大きかったので少々声を出しても目立たなかったようです）

★我が家はK太、父、母（私）の三人家族です。荷物は大きめのスーツケース一つを事前に宅急便でホテルに送りました。これもある自閉症児のおかあさんのブログに書いてあった事で、荷物を預けると到着した際ターンテーブルに荷物が出てくるまで待つのが難しい為と。K太も「目的」があれば待ちますが、いつ出てくるかわからない荷物を待つのは難しいだろうと思い往復とも宅急便を使用しました。機内持ち込みの荷物だけだと移動もスムーズでした。

今年は旅行3日目に梅雨入りとなり、あいにくの雨となりましたが1

日目はプール、2日目は海でしっかり遊べましたので大満足。K太も楽しくて水から出るのを何度も拒否するほど。5年生ともなると力も強くなってかなり手こずったりしましたが、楽しく過ごせたのでとても良い旅行となりました。

(療育部Nさんより)

記事募集

今月のテーマの、歯医者の記事ですが、都合により、来月に掲載しますね。お楽しみに!



なら燈花会 灯人(ひと)サポーター 参加ご家族募集

奈良公園で行われる「なら燈花会(とうかえ)」の点灯ボランティアに参加してみませんか?

カップを並べ、ろうそくを浮かべてチャッカマンで点火する作業です。自閉症児・者にとって燈花会をただ見に行くより、作業する方が向いているのでは?という発想の企画です。普段火を使う機会がない子ども達に ろうそくに火を灯す体験はなかなか貴重なのではないのでしょうか。実際行ってみて「走り回って終わってしまった」もアリだと思います。今回作業ができなくて見ているだけ、又は雰囲気を楽しむだけでもOKです。チャレンジしてみませんか?

仲間と行けば心強いですよ!今回は奈良県自閉症協会として団体で申し込みます。何事も体験から(*^_^*)。

もちろん、ご兄弟ご家族の参加も大歓迎です。(安全面に関しては保護者の方の責任でお願いします)

日程:平成26年8月 7日(木)
集合時間:近鉄奈良駅 行基像噴水前 16:30集合

募集人数:親子15組30名
募集対象:療育部、成人部、会員外、またはその家族(お弁当・お茶が出ます)

※尚、お弁当の配布は、参加申し込み親子に付き、各二つです。そのほかの参加される家族については各自ご用意ください、

開催地:

春日野園地(予定)

参加申し込みの方は 住所・氏名(フリガナ)・年齢・性別・続柄(本人・父・母・兄弟など)・

電話番号(ご自宅・携帯)を下記のアドレスまで送信してください。

お問い合わせ・お申し込みはメールにて: Nara.Autism.ryouikubu@gmail (棕本)

募集受付締切:7月18日(金)まで

※会場周辺は燈花会開催中、車の乗り入れ規制があると思われます。出来るだけ公共交通機関でお越しください。やむを得ず車でお越しの場合は、近隣のパーキングをご利用ください)

※詳細については申し込み後に改めてご連絡させていただきます。

※燈花会について詳しくはウェブでご確認ください。

<http://www.toukae.jp/>

遊びながら様子を観察する。
そのあとは、必要に応じてセンターでの相談や検査、保護者を対象にした子供

子供と保護者で、同市紀寺町のセンターから遠い市北部や西部を中心に催す。会場の施設に通っていても参加できない。午後1時30分から同2時45分から、各1時間。市の保健師や保育士らが2人一組で応対し、1人は保護者と話し合い、もう1人は子供とおもちゃで遊ぶながら様子を観察する。

7月の会場は4日が鳥見デイサービスセンター、11日が東登美ヶ丘幼稚園、25日が平城幼稚園。日程は市のホームページ(<http://www.city.nara.lg.jp>)に掲載している。申し込みは同センター(0742-202100)。
2014年06月06日 Copyright (c) The Yomiuri Shinbun

発達の遅れや障害がある未就学児と保護者を支援している奈良市子ども発達センターは、7月4日から原則毎月第2、3、4金曜に市立保育園や幼稚園、認定こども園など市内の15施設を巡回する出張相談を始める。県内の自治体では初めての取り組みといい、担当者は「悩みがあれば、気軽に利用してほしい」と参加を呼びかけている。(西川眸)

との接し方のトレーニングなどを行うとしている。
こうした相談で寄せられる内容は「子供が赤ちゃんのような言葉をいつまでも使う」「友達とうまく会話ができない」など様々という。市子育て相談課の担当者は「怒ってばかりだと、子供の症状が重くなることもある。相談を通じて、自分の子に一番合う接し方を見つけてほしい」と話している。



ケンケンパ活動報告



プチ♪コンサート(奈良県自閉症協会総会にて)

2012年10月より始めました ケンケンパ主催 音楽コミュニケーション活動『きいてみよう！ してみよう！ やってみよう！』は第2期をむかえ、約1年8ヶ月活動を続けてまいりました。
(現在進行中)

今回、奈良県自閉症協会総会において、日々の活動の成果をお披露目する機会を頂き、約15分間のプチ♪コンサートを開催しました。

まず最初に…

①アニメ映画「となりのトトロ」でお馴染みの『さんぽ』をトランペットの2重奏で軽やかに始まり…

②『波のささやき』をボディパーカッションで体の動きやたたくりズムで“波”を表現しました。

最後に

③トランペットの3重奏で伝説のロックバンド クイーンの名曲『ウィ・ウィル・ロック・ユー』をカッコよく！？力強く！？演奏しました。

練習期間があまり取れなかったことや、集中力に欠ける時期もあり、講師の皆さんには歯痒い思いや焦り等あったと思います。ですが、子どものレベルに合ったパートを担当させ、曲を編曲する等の工夫でプチ♪コンサートとして創り上げて頂けたこと—保護者として感謝しております。

普段の『きいてみよう！ してみよう！ やってみよう！』は月2回大和郡山福祉会館もしくは奈良先端科学技術大学院大学にて、トランペットやパーカッションなどを使って SST(ソーシャルスキルトレーニング)や仲間作りを考えていく活動をやっています。具体的には仲間と音を合わせる事、仲間の前で発言したり、演奏したり、話をきいたり、感想を言ったり、リーダーになったり、リーダーを助けたり等…音楽を通じてやっています。もう少しメンバーが増えればな～と思っておりま

すので興味のある方は見学に来てくださいね。

また、今年は子どもゆめ基金の助成を受け『夏休み限定スペシャルバージョン 10回シリーズ』を実施します。ブームワッカー(ドレミの音が出る棒)やジャンベ(アフリカドラム)、体でリズムを感じて奏でて音楽を楽しみませんか。

奈良先端大学 情報学研究科 知能コミュニケーション研究室の田中先生の支援も受けまして、友だちや人との関わり方のアプリ体験なども用意しております。

子どもさんの夏休みのご予定としてぜひご参加ください。

詳細は同封のチラシを見てくださいね。

もしくは kenkenpa_autism@yahoo.co.jp までお問い合わせください。



発行人：関西障害者定期刊行物協会

住 所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定 価：100円